

参考 「心のノート」の内容の構成

各冊子の構成

「心のノート」は小学校1・2年、3・4年、5・6年及び中学校でほぼ共通の構成をもっている。次の点に着目することによって、内容構成を理解することは、「心のノート」の有効な生かし方を考える手掛かりとなる。

- ①表紙 …………… 1・2年用冊子には、幼児期から児童期になる頃の2人の子ども、3・4年用は好奇心旺盛に体験を広げていく活動的な子ども、5・6年用は中学生への希望をもって空や鳥を見つめる子どもが配置されている。その中には、双葉、若木、大きく成長した木がそれぞれに配されている。中学校用は、たくさんの木の葉を背景に大きな一枚の葉をまん中に配して、それが水に映る様子を図案化している。
- ②自分だけの名前 …… 子どもが「心のノート」を自分の「宝物」として大事にしていくことができるように、例えば自分だけの名前をつけたり、イラストを描いたり、写真を貼ったりすることができるスペースを設けている。
- ③心のノートを開く …… 子どもが自分の悩みや考えたい課題に合わせて、どのような場で活用するとよいのか、イラストや写真を入れ、具体的な活用場面を提示している。
- ④自己像 …………… いわゆる「フェイスシート」と呼ぶことができるページ。子どもが自分の好きなことなどについて書き出していくうちに、自分をより深く見つめることができる。
- ⑤心を見がく・育てる …… 4つの視点ごとに左右の見開きで置かれている。視点ごとに色分けがされており、それぞれ内容項目の全体イメージを表している。
- ⑥各内容のページ …… 子どもが自分を見つめ、自分らしい生き方を考える内容項目の「窓口」。各項目が4ページずつで構成され、例えば、問題提起、役立つ情報の提供、記入枠、メッセージなどがイラストなどとともに構成されている。
- ⑦特設ページ …… 子どもが好きなときに自由に書き留めるページとしている。子どもの継続的な活用への意欲を引き出すのに役立つことができる。
- ⑧寄稿メッセージ …… 「心のノート」のために、特別に寄せられた言葉を掲載している。子ども一人一人の未来に向けて呼びかけるメッセージとなっている。
- ⑨次学年等へ向けて …… これまでの自分を振り返り、次の学校、学年へ向けて、新たな一歩を踏み出す子どもへの励ましやメッセージとなっている。

4冊の「心のノート」それぞれの特徴

4冊の「心のノート」は、それぞれの発達の段階に合わせて、例えば、次のような特色をもっている。

小学校1・2年用

- 寓話的で、夢をもつことができるイラストを中心に、ゆとりのある紙面構成がされている。
- 学校だけでなく、家庭での活用が有意義な1・2年。そのことを考慮し、家庭で話題にしたり、家族に書いてもらったりする欄を多く設けている。
- 繰り返し読むことによって温かな心がふくらみ、自分を大事に思う気持ちがわくようなメッセージを多く置いている。



小学校3・4年用

- よりよくなるようとする意欲がわく言葉や、道徳の内容をわかりやすく捉え、自覚を高めるための視点となる言葉を多く置いている。
- 3年と4年に分けて計画的に書くなどして、長期的に振り返ることのできる記入欄を多く設けている。
- 家族とともに話し合ったり、家族に取材したりして書き込むことのできる記入欄や、疑似体験的に書き込むことのできるページなどを多くしている。

小学校5・6年用

- ページごとに情報量や文字の大きさなどに変化をつけ、子どもを引きつけるレイアウトになるよう工夫している。
- 高学年段階の発達を捉え、子どもの知的好奇心を強め、問題意識を高めることのできるような問い掛けや投げ掛けを多く置いている。
- 自分なりのやり方、こだわり、やりたいことを率直に書き出すことのできる記入欄を多くしている。



中学校用

- 子ども一人一人が、それぞれ直面する課題や悩み・葛藤などをもとに、人間としての生き方について自問自答しながら考えを深めることができるように構成している。
- 自己の生き方を考える参考となるような格言や箴言しんげんを多く掲載している。
- 「コミュニケーション」や「生命」などについて、多様な視点からより深く考えることのできるようなページを特設している。